

平成 27 (2015) 年度  
廿日市市との包括的連携協定に伴う  
地域連携センター活動報告書

山陽女子短期大学

地域連携センター

## 2015 年度地域連携センター活動報告によせて

山陽女子短期大学 地域連携センター長

白石 幸雄

本学に地域連携センターが設置され、また、廿日市市との間に「包括的連携協力に関する協定」が結ばれて3年目を迎えることができました。

地域連携センターでは生涯学習部門、産学連携部門、自治会部門が有機的な連携を取りながら、事業を行ってきました。また、事業を推進していくためには学生の参加協力が必修であることから、教学組織としてボランティア委員会を設置し、活動のサポートにあたりるとともに、ボランティアワークとして単位を認めることとしました。ボランティア活動は、学外のさまざまな年齢層の方々とコミュニケーションを採る必要があります。学生にとって、社会勉強の一助となることから、本学もさらに一層事業を推進していく必要があると考えたからであります。

2014年度は学生のボランティアワーク登録者数84名で延べ人数247名が58事業の参加に留まっていますが、2015年度はボランティアワーク登録者数146名で延べ人数358名が57事業に参加している。登録者数で76%ポイント、延べ人数で45ポイント増と大幅な伸びを示し、報告書には「楽しかった」「感謝され嬉しかった」「また、参加したい」とのコメントが多く見られ、廿日市市内だけではなく、近隣の市で行われた事業にも積極的に参加していることから、今後は事業数の増加も可能と考えられる。

しかし、参加状況の内訳をみると、学科間の差が大きく、今後は登録者率、参加率の低い学科へのアプローチが必要と考える。

地域連携センターの運営については、各方面のご協力により初期の目的を完全ではありませんが達成しつつあります。しかし、いまだ提案型のボランティア活動にはいたっていません。学生の積極的参加の一層の増加と学生自身が様々な提案が出来るように育成を図ることも必要であると考えています。

3年間の活動を踏まえて、2016年度からは新たな体制で地域連携センターの運営がなされる予定になっています。

今後とも、廿日市市を始め、各事業所、地域の方々には、本学地域連携センターへのご理解、ご協力をお願いし、山陽女子短期大学が地域の皆様とともに歩み、本学で学んだ学生が自立した社会人となるようにご支援を賜りますようお願いいたします。

## 平成 27 年度 山陽女子短期大学地域連携センター事業

### 1. 食と健康の増進

整理番号	事項	新規/継続	連絡責任者	本学責任者	実施時期
1-1	健康食品の利用に関する相談会	継続		恵野村	7月4日
1-2	災害時の栄養と食事に関する講座	継続	廿日市市福祉保健部 社会課	中東	7月11日
1-3	なつやすみ 遊びの教室	新規	はつかいちボランティアセンター	小野寺	8月18日～19日

### 2. 教育・文化・生涯教育の推進

整理番号	事項	新規/継続	連絡責任者	本学責任者	実施時期
2-1	生涯学習フェスティバル	継続	廿日市市教育委員会 生涯学習課	重田	11月10日
2-2	山陽女子短期大学公開講座	継続	廿日市市教育委員会 生涯学習課	丸川	前期：5月30日～6月27日 後期：11月7日～12月5日
2-3	七福大学	継続	佐方市民センター	鈴木	7月16日
2-4	パソコン講座	継続	廿日市市教育委員会 生涯学習課	章	3月17日
2-5	保健指導関連事業	継続	廿日市市保健福祉センター	中東	7月24日

### 3. 地域の活性化・まちづくりの推進

整理番号	事項	新規/継続	連絡責任者	本学責任者	実施時期
3-1	街道まつり	継続	廿日市市郷土文化研究会	重田	要請がなく、未実施
3-2	「大新の桶すし」の再復活	継続	廿日市商工会議所婦人部 廿日市市郷土文化研究会	重田 谷口 (薫)	12月4日
3-3	まちづくり交流会 in はつかいち	継続	廿日市市協同推進課	重田	要請がなく、未実施

3 4	県内産食材を使用した焼き菓子販売	継続	JA ふれあい市場廿日市	重田	不参加
3 5	保健まつり	継続	五師会	中東	11月8日
3 6	みやじま国際パワートライアスロン大会準備	新規	大会事務局	谷口 (薫)	5月26日
3 7	夏恒例こども向け～「七夕まつり」	新規	けん玉商店街(廿日市駅通り商店街)	小野寺	7月4日
3 8	けん玉ワールドカップ	新規	けん玉商店街(廿日市駅通り商店街)	小野寺	7月18日～19日
3 9	JA 企画「親と子の野菜スクール」	新規	佐伯中央農業協同組合	鈴木	5月16日・6月6日 7月11日・10月25日 12月5日
3 10	JA フェスティバル in はつかいち	新規	佐伯中央農業協同組合	鈴木	11月14日
佐方 1	れんげ祭り	継続	佐方自治会	石永	4月29日
佐方 2	すえひろ会	継続	佐方自治会	平林	7月10日
佐方 3	佐方夜市夏祭り	継続	佐方中央商店街	重田	7月18日
佐方 4	野外活動体験キャンプ	継続	佐方自治会コミュニティ事業部青少年部	高田	8月8日～9日
佐方 5	佐方地区敬老会	継続	佐方自治会	中東	9月21日
佐方 6	通学合宿	継続	佐方自治会	平林	10月25日～27日
佐方 7	市民センター祭り	継続	佐方市民センター	石永	大学祭のため不参加
佐方 8	地域花いっぱいうんどう	継続	佐方自治会	石永	10月31日
佐方 9	リトルシェフ	継続	佐方市民センター	下地 西庄	11月21日
佐方 10	子供餅つき大会	新規	佐方自治会	石永	11月23日
佐方 11	佐方地区とんど祭り	継続	佐方自治会	石永	1月9日

#### 4. 人材の育成

整理番号	事項	新規/継続	連絡責任者	本学責任者	実施時期
4-1	インターンシップの推進	継続		鈴木	9月7日～9月11日 9月14日～9月18日
4-2	診療情報管理士・医療事務員スキルアップ研修	継続		有吉	4月22日・5月30日 7月25日・6月24日 8月26日・10月28日 12月25日・2月24日
4-3	医療機関機能別医療費説明会	継続		有吉	未実施
4-4	ゼロからはじめる癌登録	新規		有吉	5月30日・7月25日
4-5	学生のためのボランティア応援会議	新規	廿日市市社会福祉協議会	小野寺	4月8日・6月3日 10月15日

#### 5. 環境活動の推進

整理番号	事項	新規/継続	連絡責任者	本学責任者	実施時期
5-1	はつかいち環境フェスタ	継続	はつかいち環境フェスタ実行委員会	重田	10月4日
5-2	手指衛生等の出前授業	継続	廿日市教育指導課	林田	申し込みなく、未実施
5-3	台所用品の衛生度チェック	継続		林田	申し込みなく、未実施
5-4	花粉飛散調査	継続		林田 岡村	2月8日～4月2日

#### 6. その他の活動

整理番号	事項	新規/継続	連絡責任者	本学責任者	実施時期
6-1	むぎの家(障がい者施設)におけるボランティア	新規	NPO法人 むぎの家	小野寺	4月18日
6-2	ひろしまフラワーフェスティバル	新規	日本赤十字社	小野寺	5月3日～5日
6-3	献血ルームピース(献血推進活動)	新規	日本赤十字社	小野寺	5月10日
6-4	ピンクリボンキャンペーン	新規	キャンペーン 広島実行委員会	中東	5月17日

6 - 5	児童養護施設 光の園 バザー補助	新規	児童養護施設 光の園	小野寺	5月17日
6 - 6	とうかさん de エイズ検 査	新規	広島県臨床検査技師会	小野寺	6月6日
6 - 7	第53回献血倶楽部ラブ ロックセミナー	新規	広島県大学献血推進協議 会	小野寺	6月27日

地域貢献・地域連携活動報告

1 - 1

活動名	健康食品管理士会
目的または趣旨	市民公開講演会 健康食品の利用に関する相談会
共催団体名	なし
期日（期間）	平成27年7月4日
活動拠点	山陽女子短期大学 総合科学館 第1CAI
参加者	教員：谷口菊代 林田静代 恵野村明美 岡村美和 学生：黒瀬愛華
活動内容	講演1 鈴鹿医療科学大学 教授 日本食品安全協会 理事長 長村洋一 先生 「あなたの健康な食生活のために機能性表示食品をどのように活かすか」 講演2 岡山県立大学 教授 山下広美 先生 「醸造酢の主成分である酢酸の機能性について -肥満と生活習慣病の予防の観点から-」 健康食品にまつわる身近な話 香川県立保健医療大学 多田達史 先生 「血糖値が気になる方と健康食品の付き合い方 -希少糖のご紹介- 」
反省・コメント等	健康食品の利用に関する相談会への参加者がなく、公民館等のポスター等の掲示もしたのだが、健康食品への関心が少ないのかもしれない。
添付書類	有

# 健康食品管理士会中国支部研修会 廿日市市市民公開講演会

上手に付き合おう！  
機能性表示食品

日時 平成27年7月4日(土)  
13時～16時

場所 岡山大学鹿田キャンパス  
保健学科棟 301講義室

サテライト会場  
山陽女子短期大学 第1 CAI室

当日 案内板を設置いたします

参加費  
無料

- ▶ 講演1  
鈴鹿医療科学大学 教授  
日本食品安全協会 理事長 長村洋一 先生  
「あなたの健康な食生活のために  
機能性表示食品をどのように活かすか」
- ▶ 講演2  
岡山県立大学 教授 山下広美 先生  
「醸造酢の主成分である酢酸の機能性について  
-肥満と生活習慣病の予防の観点から」
- ▶ 健康食品にまつわる身近な話  
香川県立保健医療大学 多田達史 先生  
「血糖値が気になる方と健康食品の付き合い方  
-希少糖のご紹介」

当日 相談も受け付けます

地域貢献・地域連携活動報告

1 - 2

活動名	地域連携事業：2015 チャレンジぼうさい in 四季が丘
目的または趣旨	市民の自助・共助の意識向上に向けた取り組みの一環として、四季が丘地区内に在住する防災委員に備蓄に対する知識の習得のため講演をする。
共催団体名および共催の経緯 (依頼理由)	主催：四季が丘地区自主防災連絡協議会 四季が丘市民センター 廿日市市自治振興部地域政策課 経緯：昨年と防災委員のメンバーが入れ替わったため、再度教育のため実施する。
年・日時	平成 27 年 7 月 11 日 10 : 00 ~ 11 : 00
活動拠点	廿日市市四季が丘市民センター
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	中東教江
活動内容	四季が丘地区の防災委員 30 名に「災害に備えて ー備蓄品のそなえ方ー」と題して、非常時に備えて準備しておく食品について、必要性や種類、量などについて、具体的に指導する。
反省・コメント	質問として、調味料の保存の期間や温度について、問われたが、大体のものは保存期間が 6 ヶ月から 1 年程度であるが、夏場の暑いときは保存状態も悪いので、できれば早くに使い、冷蔵庫に入れられるものは低温で保存すると良いと回答する。
添付書類	(有 <input checked="" type="radio"/> 無)

地域貢献・地域連携活動報告

1 - 3

活動名	なつやすみ 遊びの教室
目的または趣旨	子どもたちの交流、体験の場・行き場づくり、保護者の休息時間づくりを目的とする
共催団体名および 共催の経緯 (依頼理由)	はつかいちボランティアセンター
年・日時~年・日時	2015年8月18日~19日
活動拠点	はつかいちボランティアセンター
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	（臨床）4名、（人間）1名
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害者の子どもと宮島水族館に行って交流を深める。</li> <li>・ 障害者の子どもと買い物に行き、お昼を作ったり、遊んだりする。</li> </ul>
反省・コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子ども達と一緒に買い物したり、ご飯を作ったりするのが楽しかったです。</li> <li>・ 色々なことを学べたと同時に、私自身も楽しめました。</li> </ul>
添付書類	（有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/> )

地域貢献・地域連携活動報告

2-1

活動名	第 25 回廿日市市生涯学習フェスティバル
目的または趣旨	フードモデルとパソコンによる食事バランスチェック 県内の食材を使ったスイーツの販売
共催団体名および 共催の経緯 (依頼理由)	主催：廿日市市、廿日市市教育委員会、廿日市市生涯学習係 経緯：2010年から毎年参加している。
年・日時～年・日時	2015年11月10日 10時～15時
活動拠点	廿日市市庁舎
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	★津村なみえ 西庄安奈 食物栄養学科1年生5名、2年生4名
活動内容	食育SATシステムによる食事バランスチェックと、スイーツを販売した。昨年と同じ場所でスムーズに行うことができた。スイーツ販売場所は、完売後食事バランスチェックの解説場所へと設置しなおした。途中、イベントステージで出展PRの時間をもらえた。混雑や閑散とした時はあまり無く、あらゆる年齢層の方に体験していただいた。
反省・コメント	例年通りで、問題なく実施できたが、主催団体の予算等の都合により、来年度からは出展規模・内容の検討が必要。
添付書類	有



地域貢献・地域連携活動報告

2 - 2

活動名	第 35 回 山陽女子短期大学公開講座 (2015 年度前期)
目的または趣旨	地域住民に生涯学習の機会を提供する。
共催団体名および 共催の経緯 (依頼理由)	共同主催：山陽女子短期大学 廿日市市生涯学習推進本部
年・日時～年・日時	2015 年 5 月 30 日 (土) ～6 月 27 日 (土) 毎回 13:30～15:00
活動拠点	山陽女子短期大学
参加者 教員 (責任者には★) 学生 (所属・学年・人 数)	全体の責任者：白石地域連携センター長 運営：山陽女子短期大学地域連携センター生涯学習部門 廿日市市教育委員会生涯学習課
活動内容	「災害の現状と今後の備え～防災と減災のために～」を統一テーマとし、全 5 回を、本学教員 (1 回)、外部講師 (4 回) が担当して行われた。  一般参加応募者数：35 名
反省・コメント	講座終了時に行ったアンケート結果では、60%の受講者が「満足」「やや満足」と答えているが、これまでの講座の中では、若干、低い満足度であった。応募者が少なかったことも含めて、「災害」という地味なテーマだったことにも因ると考えられる。
添付書類	(有 無)



開校式の様子



講座の様子



講座の様子



閉講式の様子

地域貢献・地域連携活動報告

2-2

活動名	第35回 山陽女子短期大学公開講座（2015年度後期）
目的または趣旨	地域住民に生涯学習の機会を提供する。
共催団体名および 共催の経緯 (依頼理由)	共同主催：山陽女子短期大学 廿日市市生涯学習推進本部
年・日時～年・日時	2015年11月7日（土）～12月5日（土） 毎回13:30～15:00
活動拠点	山陽女子短期大学
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	全体の責任者：白石地域連携センター長 運営：山陽女子短期大学地域連携センター生涯学習部門 廿日市市教育委員会生涯学習課
活動内容	「からだのしくみを考える」を統一テーマとし、全5回を、本学教員（4回）、外部講師（1回）が担当して行われた。  一般参加応募者数：58名
反省・コメント	講座終了時に行ったアンケート結果では、76%の受講者が「満足」「やや満足」と答えており、高い満足度を示した。高校生2名（山陽女学園高等部）の受講者もあった。今後、受講者層を広げることが課題である。
添付書類	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無



講座の様子



講座の様子



閉講式の様子

地域貢献・地域連携活動報告

2 - 3

活動名	「七福大学」講演
目的または趣旨	佐方市民センターが主催する地域住民を対象とした高齢者学級
共催団体名および共催の経緯(依頼理由)	共催団体はなし
年・日時~年・日時	2015年7月16日(木)、13:30~15:00
活動拠点	佐方市民センター(廿日市市佐方1-4-28) Tel:0829-32-5049
参加者	食物栄養学科 鈴木
活動内容	佐方市民センターが主催する地域住民を対象とした高齢者学級へ講師として講演した。演題目を「高齢期と運動~メタボもロコモもやっつけろ!」とし、 1. 現代日本の社会的背景 2. メタボリックシンドロームの概念やその現状 3. ロコモティブシンドロームの概念やその現状、チェックテストなど 4. 疫学調査からみた身体活動の重要性 5. まとめ のメニューでトレーニング内容も含め講演した。受講者は25名程度であり、90分間にわたり熱心に傾聴していただいた。
反省・コメント	受講者は皆、「健康」をキーワードとしたこの分野の話には関心が高かったようであり、いくつかの質問も飛び出し、有意義な時間を過ごせたと思われる。
添付書類	(有 ・ 無)

域貢献・地域連携活動報告

2-4

活動名	マイクロソフト・オフィスで楽しむ —写真入りのマイ名刺を作ろう—
目的または趣旨	地域住民に生涯学習の機会を提供する。
共催団体名および 共催の経緯 (依頼理由)	廿日市市教育委員会・生涯学習推進本部
年・日時~年・日時	2016年3月17日(木) 10:00~12:00
活動拠点	山陽女子短期大学
参加者 教員(責任者には★) 学生(所属・学年・人数)	全体の責任者: 章 情報センター長 運営: 山陽女子短期大学地域連携センター生涯学習部門 廿日市市教育委員会生涯学習課
活動内容	高齢者を対象として、パソコンの入門講座を行った。講師は、章教授で、学生アシスタント3名、教職員2名を配置し、参加者もパソコンを操作しながら受講した。  一般参加応募者数: 45名(抽選により30名を選抜した)
反省・コメント	昨年の反省をもとに、学生アシスタント、教職員アシスタントを増やしたが、それでも指導が行き届かないという印象があった。また、今回は、担当者による大まかな事前打ち合わせを行ったが、もっと緻密な打ち合わせが必要なことを痛感した。アンケート結果は、昨年度よりも満足度は上がった。
添付書類	<input checked="" type="checkbox"/> (有)      無)



講座の様子



講座の様子

地域貢献・地域連携活動報告

2 - 5

活動名	廿日市市 保育連盟の研修会講師
目的または趣旨	廿日市市保育園職員の研修会 (保育士・保育所栄養士・調理員)
共催団体名および 共催の経緯 (依頼理由)	廿日市市 保育連盟
年・日時~年・日時	平成 27 年 7 月 24 日(金) 18:00~19:30
活動拠点	廿日市市保険福祉センター あいプラザ・多目的ホール
参加者 教員(責任者には★) 学生(所属・学年・人数)	★ 研修会 講師 食物栄養学科 平林 眞弓 参加者 ★廿日市市保育連盟 会長 前田 由美 廿日市市 保育園職員 保育士・栄養士・調理員 140 名
活動内容	演題「乳幼児期の食育とは」 授乳期から 6 歳までの、発育と成長に伴う、保育者の食育(導き)の方法と同時に、食育は人間形成の第 1 歩であることの説明 発育と成長に伴う、食育の時期 ・生きるために食べる本能的な行動を育てる時期・毎日繰り返される食行動を育てる時期・自分で考えて食べる知的な行動を習慣化する時期・社会の一員として食べる行動や社会性を育てる時期・食べる知識を理解し、主体的に実践する時期 ※各時期に必要な食育の考え方・方法を述べた。 食育の問題点 ・偏食の対応・朝食の欠食の対策・保育所のアレルギー児の対応
反省・コメント	0~6 歳の食育は個々の園児の成長に合わせて行っていかなければならないので、保育者にとっても大変な問題であると同時に、園児の成長が楽しみの時期でもあります。私は栄養の専門家として、講演をしましたが、この時期の「食育」は、保育士と栄養士が協力しながら、対処していかなければならないことが多くあることを痛感しました。 またこのような機会を与えて頂き、廿日市市保育園長先生方との意見交換のでき、大変勉強になりましたこと、感謝いたします。
添付書類	(有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/> )

地域貢献・地域連携活動報告

3-2

活動名	「桶寿司」講習会
目的または趣旨	廿日市市に伝わる桶寿司の歴史を知り、復活した桶寿司のつくり方を学ぶ。
共催団体名および共催の経緯(依頼理由)	主催：郷土文化研究会 経緯：郷土文化研究会正木様から重田先生に依頼があり、桶寿司文化の継承のため、4年前から毎年開催している。
年・日時～年・日時	2015年12月4日9～13時
活動拠点	本学集団調理実習室
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	教員 ★津村なみえ 学生 食物栄養学科1・2年生9名
活動内容	廿日市市商工会議所女性会の皆さまをはじめ、郷土文化研究会、廿日市中央市民センター様（合計9名）ご協力のもと、廿日市市に伝わる「桶寿司」のつくり方を教えていただきながら作った。調理の合間によもぎ餅も作った。 桶寿司とは何か、桶寿司を復活させたときのいきさつなどを聞き、談笑しながら出来上がった桶寿司をいただいた。
反省・コメント	当日、中国新聞取材があったため、通常よりも余分に時間がかかってしまった。しかし、学内外で本事業に興味を持つ人が増え、来年度の開催にも工夫して活かしたいと思った。
添付書類	有



# 広島都市圏

## 「桶ずし」伝承若者に託す

### 廿日市の研究会が教室

廿日市市郷土文化研究会は4日、江戸時代に山陽道の宿場町として栄えた廿日市の名物料理「大新の桶ずし」の作り方と歴史を、同市佐方本町の山陽女子短大の学生に教えた。

同研究会と廿日市商工会議所女性会の計8人が、同大食物栄養学科の9人に指導。桶に入れた酢飯は、煮込んだシイタケやゴボウ、ニンジンなどを挟んで2層に。重しを載せて約1時間後、アナゴや



水本さん(右端)に教わりながら、桶ずしを仕上げる山陽女子短大生

エビ、卵焼きをちりばめて完成させた。桶ずしは1810年代

に大黒屋新助という人物が売り出し、名物に。「大新」はその名前に由来する。作り手が途絶えていた約30年前、当時の廿日市商工会のメンバーが、大黒屋の子孫から聞き取って再現した。同女性会の水本絹子さん(82)は「調理師や栄養士を目指す若者に、廿日市の味を覚えてもらえた。地域の文化として継承してほしい」と話した。(長部剛)

地域貢献・地域連携活動報告

3 - 5

活動名	「第 12 回あいプラザまつり」(主催：廿日市市健康福祉協議会)
目的または趣旨	栄養の知識の普及を目的とする。
共催団体名および 共催の経緯 (依頼理由)	主催：廿日市市健康福祉協議会 代表者：黒瀬 雅彦 廿日市市五師士会のメンバーとして“あいプラザまつり健康 コーナー”に参加する。
年・日時	平成 27 年 11 月 8 日 8 : 30 ~ 16 : 30
活動拠点	廿日市市新宮 1 丁目 13-1 廿日市市総合福祉センター あいプラザ
参加者 教員 (責任者には★) 学生 (所属・学年・人 数)	教員 ★中東教江 学生 食物栄養学科 2 年生 2 名
活動内容	栄養クイズコーナーを担当し、参加者にクイズに答えてもらい、栄養の知識を深めるために、間違えたところの解説をする。また、景品を参加者に渡す。
反省・コメント	多くの人がクイズに参加をしてくれた。子どもたちの方が良く分かっている問題もあり、学校での栄養教育が出来ている点や、高齢者では忘れていたことなどがあった。これからも簡単な栄養学の問題を出し、再度、認識していただくことを心がけたい。
添付書類	(有) <input checked="" type="radio"/> (無)

地域貢献・地域連携活動報告

3-6

活動名	みやじま国際パワートライアスロン大会準備
目的または趣旨	みやじま国際パワートライアスロン大会成功のための手伝い
共催団体名および 共催の経緯 (依頼理由)	みやじま国際パワートライアスロン大会事務局
年・日時~年・日時	2015年5月26日
活動拠点	廿日市商工会議所
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	教員：谷口薫 学生：臨床検査学科 10名
活動内容	トライアスロン大会出場選手への配送資料袋詰め
反省・コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 効率よく作業するのが難しかった。</li> <li>・ 袋詰めの際、資料が折れないように注意して行った。</li> <li>・ いろんな地域からトライアスロンに参加する人がいて驚いた。</li> <li>・ 誰かの役に立つことは嬉しかった。</li> </ul>
添付書類	（有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/> )

地域貢献・地域連携活動報告

3 - 7

活動名	夏恒例こども向け～「七夕まつり」
目的または趣旨	地域の人々と触れあい、お祭りの手伝いをする。
共催団体名および 共催の経緯 (依頼理由)	けん玉商店街
年・日時～年・日時	2015年7月4日
活動拠点	けん玉商店街内（廿日市駅通り商店街）
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	（臨床）4名、（食栄）2名
活動内容	まつり屋台の設営、屋台販売
反省・コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雨だったため、人が来るか不安だったが、たくさんの方が来てくれた。</li> <li>・あまり売れなかったのが残念だったけど、友達と声を出しながら販売するのは楽しかった。</li> <li>・商店街の人とも話せてよかった。</li> <li>・雨の中多くのお客さんが訪れ、小さな子どもの手伝いも多く、地域の人々の繋がりを感じた。</li> </ul>
添付書類	（有      無）

地域貢献・地域連携活動報告

3-8

活動名	けん玉ワールドカップ会場内「販売ブース」
目的または趣旨	地域の人々と触れあい、お祭りの手伝いをする。
共催団体名および 共催の経緯 (依頼理由)	けん玉商店街
年・日時~年・日時	2015年7月18日~19日
活動拠点	けん玉商店街内（廿日市駅通り商店街）
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	臨床検査学科2名
活動内容	けん玉商店街商品ブースの販売サポート
反省・コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前お祭りでお世話になった方々だったので、楽しんでできた。</li> <li>・1日目だったのでお客さんが少なかった。</li> <li>・「明日も来てほしい」とのことで2日目もやらせてもらった。</li> <li>・2日目は自分の役割がはっきり分かっていたのでテキパキできた。</li> </ul>
添付書類	（有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/> )

地域貢献・地域連携活動報告

3-9

活動名	JA 企画「親と子の野菜スクール」
目的または趣旨	野菜の植え付けから栽培、収穫、調理までの一連の過程を通じ、「地産地消」「農業の魅力」を体験する。
共催団体名	佐伯中央農業協同組合
期日（期間）	①平成 27 年 5 月 16 日（土） ②平成 27 年 6 月 6 日（土） ③平成 27 年 7 月 11 日（土） ④平成 27 年 10 月 25 日（土） ⑤平成 27 年 12 月 5 日（土）
活動拠点	①②③④廿日市市津田 3231-1「ふれあい農園」 ③⑤廿日市市津田 4218「さいき文化センター」
参加者	○食物栄養学科生 8 名 ・2 年生：辻結貴、平垣内未奈、平賀千晴、西田知世、益優沙、片岡明日美 ・1 年生：上釜優希、藤岡郁美  ○引率：鈴木
活動内容	毎回 JA 佐伯中央が管理する「ふれあい農園」まで足を運び、5 月～12 月まで全 5 回にわたり、「地産地消」「農業体験」をテーマに各種野菜の苗付けから栽培、収穫、調理までの一連の作業を体験した。じゃがいも、さつまいも、えだまめ、大長なす、あずきなど地元農家の協力を得ながら、さらには本企画に参加する地元の家族との交流を持ちながら食農体験ができた。企画最終日には「調理編」と称し、本学学生が調理の講師となって、「さつまいもご飯」「さつまいもコロコロサラダ」「あずきのパウンドケーキ」づくりのデモ、および実地指導も行い、日頃の学習の成果を発揮する時間が得られた。学生らには全 5 回を通じ、教室内では決して経験することのできない貴重な食農・食育経験の場になったのではないかと思われる。
反省・コメント等	この度の参加者は、学年もコースも異なる編成となり、連絡・打合せに面倒があった。特に最終日（12/5）の料理編では、参加学生全員が揃う事前打合せの機会設定ができず、苦慮した。（まあ、その割には学生らは、うまくこなしていたのではないかと思われる。）
添付書類	有

野菜の栽培と収穫、料理作りの体験をしませんか？

# 第8回 親と子の野菜スクール

## 参加者募集中!



JA佐伯中央では、親子・家族で野菜の植付けから収穫・料理までの課程を通して、次世代を担う子どもたちに、農業の魅力を少しでも理解いただき、家族で食の大切さや『地産地消』を知っていただくために『親と子の野菜スクール』を開催しています。

平成27年度 参加親子・家族といっしょに農業・料理体験をしていただける元気な学生さんを募集いたします。  
※ 2回目より参加となります。

相談・申込みは、  
食栄科 鈴木まで。  
遠慮なくどうぞ!!

**実施場所** ふれあい農園 (廿日市市津田 3231-1)  
(学校よりバスにて送迎いたします)

**参加申込**

**募集人員** 10人

ください。なお、お申し込みいただいた際に取得する個人情報はスクールにかかるご連絡のみに使用させていただきます。

**参加費** 無料

**申込締切日** 平成27年4月20日(月)まで

**参加資格**

- ・原則全ての日程に参加できる方
- ・農業や料理に興味があり参加親子家族といっしょに体験していただける方
- ・JAフェスティバル(11/15開催予定)に参加いただける方

**その他**

- 野菜スクールの詳細・日程(3回目以降)は学校に別途郵送にてご通知します。
- 参加風景はJA広報誌・ホームページなど各メディアで報じられる場合があります。

日程(予定) 野菜の生育状況や天候、会場の都合により実施日が変更となる場合がありますのでご了承ください。

1回目	2015年4月4日(土)	9:00~12:00	●開校式 ●ジャガイモ植付 ●ニンジン種まき ●畑づくり
2回目	2015年5月16日(土)	9:00~14:00 昼食あり	●植付(ナス・エダマメ) ●工作(畑の旗作り)
3回目	2015年6月6日(土)	9:00~12:00	●植付(サツマイモ・アズキ)
4回目	2015年7月18日(土)	9:00~14:00 昼食あり	●草取り ●収穫(ジャガイモ・ニンジン等) ●カレー作り
5回目	2015年10月17日(土) (月末へ変更の可能性あり)	9:00~12:00	●収穫(サツマイモ・アズキ)
6回目	2015年12月5日(土)	9:00~14:00 昼食あり	●親子で料理教室(収穫した野菜や地場野菜を使った料理教室) ●閉校式

詳細については本店総合企画課まで

☎ 0829-39-3211



地域貢献・地域連携活動報告

3-10

活動名	JA フェスティバル in はつかいち
目的または趣旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域食材を利用した加工品の製造・販売をとおした地産地消の普及・啓発</li> <li>・ 地域住民および関連企業とのコミュニティー活動</li> </ul>
共催団体名	佐伯中央農業協同組合
期日（期間）	平成 27 年 11 月 14 日（土）
活動拠点	廿日市市立宮内小学校 グランドおよび体育館
参加者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ サークル「スイーツハウス」メンバー3名 （岡本和葉、熊野晶子、望月穂南）</li> <li>・ 引率（鈴木、西庄）</li> </ul>
活動内容	<p>廿日市佐伯地域で採れた食材（さつまいも、あずき）を利用した加工品の製造・販売。</p> <p>毎年 11 月中旬に JA 佐伯中央が主催し開催する「JA フェスティバル in はつかいち」に参加し、サークル「スイーツハウス」メンバーが事前に学内施設にて製造した「あずきのシフォンケーキ」「さつまいものパウンドケーキ」「さつまいものケーキ」「スイートポテトスティック」を出品・試食・販売を行った。当日は地域の住民をはじめ、JA 関係者らが多数会場に訪れ、当方らが持参した前述のスイーツ各種は、比較的早い時間に好評のうちに完売に至った。</p>
反省・コメント等	<p>前日まで雨模様が続き、当日の来訪者を少なく見積もって各種スイーツの製造を行い、当日現地へ搬入したが、当初の予想を上回る入場者数となり、販売開始後 1 時間程度で完売するに至った。準備にかかる時間が許せば、もう少し多めに製造したいところであった。</p>
添付書類	有



地域貢献・地域連携活動報告

佐方1

活動名	「第13回れんげ祭り in 佐方」(2015年度)
目的または趣旨	佐方自治会行事へのボランティア活動として参加
共催団体名および共催の経緯(依頼理由)	主催：佐方アイラブ自治会 コミュニティ事業局 経緯：昨年度からの継続
年・日時～年・日時	クッキー作り：2015年3月30日～4月28日(食物栄養の学生) 当日：2015年4月29日水曜日 8:30-15:30時
活動拠点	西広島バイパスの佐方出口の山手のたんぼ
参加者 教員(責任者には★) 学生(所属・学年・人数)	教員：★石永、松本、西庄(クッキー作成) クッキー作り：食物栄養2年4名 1年1名 当日人間生活：1年2名、食物栄養：1年12名 臨床検査：1年32名、2年14名
活動内容	クッキー作り：3月末から試行錯誤を重ねて来て、れんげの蜂蜜とれんげの花を入れたジャムを作成し れんげクッキーを完成し、800個以上を作成した。 当日：昨年より20名多く参加してくれました。昨年は雨が降っていたが、今年は晴れで温度も高く、まさに祭り日和であった。多くの食品販売コーナーあるいは受付や子どもとの触れ合い広場などに振り分けられ、それぞれ楽しく・笑顔で対応していた。今年は食物栄養の学生諸君が作ったれんげクッキー(れんげの蜂蜜、れんげの花ジャム)も好評で完売した。暑くて大変だったが、楽しい一日となったようであった。多くのコーナーで最後のテントの片付けまで行った。
反省・コメント (学生の感想も含めて)	各コーナーへの学生の割り振りを、臨機応変に変更出来るようにすれば、一時的に手持ち無沙汰になる学生は減ると考えられた。熱中症対策はするように伝えたが、日焼け対策についても伝えた方が良かったかもしれない。
添付書類	(有) 無)





地域貢献・市域連携活動報告書

佐方2

活動名	平成27年度「すえひろ会」の食事会 (佐方自治会行事への積極的参加)
目的又は趣旨	廿日市市佐方地区では、70歳以上の独り暮らしの高齢者へ毎月1回お弁当を提供されている。 本学の給食管理実習の時間に高齢者への食事を提供することで、地域との連携をはかっている。
協賛団体名および共賛の経緯	廿日市市教育委員会 廿日市市福祉協議会 アイラブ自治会 連絡責任者 福祉事業局長 生川 佳代子様 (080-1647-6551)
年・日時	平成27年 7月10日(金) (6月5日・7月3日 生川様と打ち合わせ)
活動拠点	山陽女子短期大学
参加者 教員(責任者★) 学生(所属・学年・人数)	すえひろ会 28名・アイラブ自治会 4名 廿日市市教育委員会 2名 廿日市市福祉協議会 2名 計 36名 担当教員 ★平林 眞弓 ・宇都宮 光 参加教員 学長・副学長・その他教員 4名 学生 食物栄養学科 栄養管理コース2年生 38名 計 47名
活動内容	7月10日(金) 11:45 大学の送迎バスですえひろ会の皆様が到着 12:00 学生・教員と一緒に歓談をしながらの食事会 13:00 大学の送迎バスで帰途に着く。 食事の献立 ・あなご丼・里芋の煮付け・桜海老のかき揚げ・白和え ・そうめん汁・水ようかん
反省・コメント	すえひろ会の方々のテーブルには学生・教員が同席して和やかな食事会を行うことができました。すえひろ会の皆様にも喜んでいただき、学生にとっても良い経験となりました。卒後の栄養士の仕事においてもこの経験が生かし、がんばってほしいと考えます。
添付書類	写真等



地域貢献・地域連携活動報告

佐方3

活動名	「佐方夜市夏祭り」に出店
目的または趣旨	地域連携：佐方自治会行事への参加の一つ
共催団体名および 共催の経緯 (依頼理由)	佐方自治会の佐方夜市活性化委員長新田茂美氏と相談して、今年度から佐方市民センターの「ちびっこ広場」で出店することとなった。
年・日時～年・日時	クッキー作り：2015年7月16日 13時～17時 販売：2015年7月18日 17時30分～20時30分
活動拠点	・クッキー作りと袋詰めは大学内で行った ・クッキー販売は佐方市民センター前の広場 (テント0.5張、テーブル2卓：センターが用意)
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	教員 ★重田教授・石永教授・中東教授・松本助手 クッキー作り：食物栄養学科1年2名、2年2名 販売（当日）：食物栄養学科1年9名
活動内容	教員と学生で試作を繰り返し、黒米を使ったクッキーを完成させた。当日は、広場で販売するグループとフラワー通りを売り歩く2つのグループに分かれた。学生は声を張り上げながら、クッキーを買って頂くようにアピールしていた。フラワー通りで売り歩いたグループもそれぞれ完売した。早めに完売したのもっと個数を増やせば良かったという声も出たほどであった。
反省・コメント	クッキーの値段やチラシに関して、もっと大きい紙に大きい字で書けば良かった。来年はOC(7/18)の時に作ったブルーベリースムージーを売ったらどうだろうと言う意見が出た。
添付書類	(有) 無)

○レシピ

黒米粉のスノーボール

**材料** (約 45 個分)

薄力粉	130 g
黒米粉	40 g
アーモンドパウダー	40 g
バター	90 g
砂糖	50 g
レモン汁	10 cc
粉砂糖	適量

**作り方**

1. フードプロセッサーに薄力粉・黒米粉・アーモンドパウダー・砂糖を入れて回す。
2. バターとレモン汁を入れて一塊になるまで回す。
3. 生地を取り出してラップに包み、冷蔵庫で 30 分休ませる。
4. 休ませた生地を丸めて (1 個 8g) 天板に並べ、170℃に予熱したオーブンで約 15 分~20 分焼く。
5. 焼けあがってあら熱が取れたら粉砂糖をまぶす。



佐方商店街夜市 限定

山陽女子短期大学 黒米のスノーボール販売中!



黒米のスノーボール (5個入り) 100円

黒米とは、ポリフェノールなどが含まれ、栄養価の高い穀物です。

黒米の成分には…

- ・ 動脈硬化予防
- ・ 老化防止
- ・ 発ガン抑制
- ・ 滋養強壮
- ・ 胃腸を丈夫にする
- ・ 造血

などの作用があると言われています。

そんな“黒米”を使用して、  
サクッほろっとした食感のクッキーに仕上げました。  
ぜひお買い求めください!

山陽女子短期大学 食物栄養学科



## ～ “ 黒米 ” について ～

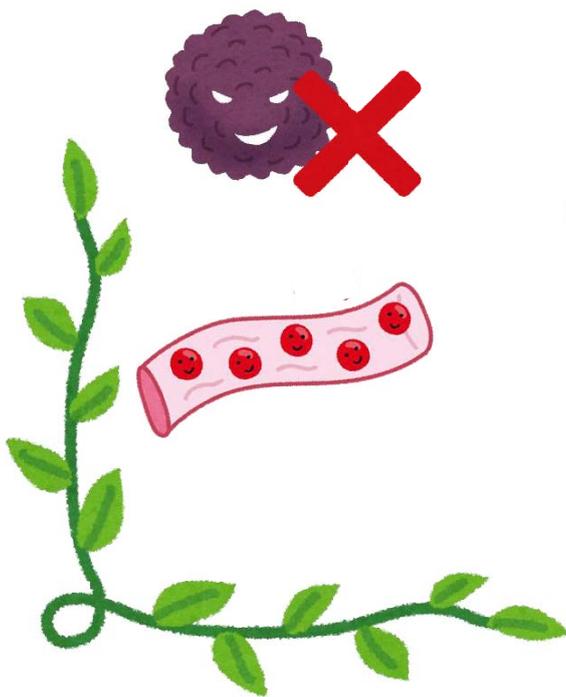
“ 黒米 ” に含まれる成分には…

- ・ポリフェノール
- ・カルシウム
- ・鉄分
- ・ビタミン B1, B2, E
- ・たんぱく質
- ・ナイアシン
- ・マグネシウム
- ・食物繊維

などがあります。

これらの成分により “ 黒米 ” には、以下の作用 があるとされています。

- ・動脈硬化予防
- ・老化防止
- ・発ガン抑制
- ・滋養強壮
- ・胃腸を丈夫にする
- ・造血作用



山陽女子短期大学 食物栄養学科



地域貢献・地域連携活動報告

佐方4

活動名	第18回少年少女野外活動体験キャンプ
目的または趣旨	佐方自治会行事へのボランティア活動 (リーダー育成の手伝い)
共催団体名および 共催の経緯 (依頼理由)	佐方自治会コミュニティ事業部青少年部主催  事業部局長：橋本博 青少年部長：榎本滋
年・日時～年・日時	2015年8月8日～9日 打ち合わせ(5回/6～8月)
活動拠点	キャンプ場：極楽寺山キャンプ場 打ち合わせ：佐方市民センター
参加者 教員(責任者には★) 学生(所属・学年・人数)	SRV(サークル) 参加者 臨床2年：河野さつき、生野美奈、佐々木春佳
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達を中心としてその保護者や学区に暮らす人々と一緒になって、キャンプを行い佐方地域にまつわる話しや歴史を学ぶ。</li> <li>子ども達がスムーズにキャンプが行えるようにサポートした。 (・キャンプに向けての綿密な打ち合わせも行った)</li> </ul>
反省・コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちと一緒に成長できて楽しかった。</li> <li>子どもたちのサポートをすることで自分自身も成長できた。</li> <li>学ぶこともたくさんあり、参加してよかった。</li> <li>たった2日間だけでも、子どもたちはすごく成長するんだなと思った。</li> <li>初めての参加で分からないことも多かったけれど、色々な人の支えもあり成功させることができた。</li> <li>一緒に楽しむことができた。</li> <li>自然に触れ、久しぶりに汗をかく事ができてとても気持ち良くリフレッシュできた。</li> <li>もっと視野を広げて積極的に行動するべきだと反省した。</li> </ul>
添付書類	(有) 無)



## 第18回少年少女野外活動体験キャンプ

### 実施要領

#### 事業名称：「第18回少年少女野外活動体験キャンプ」

地域の人々と子どもたちが共に時間を共有することで、  
明るく住みよい地域づくりにつなげるよう子どもたちの  
キャンプを行います。

- (1) 主催：佐方アイラブ自治会
- (2) 協力：地域安全協議会・地区老人会連合会・佐方小学校 PTA・消防団佐方班・  
佐方中央商店会・佐方小学校・廿日市中学校
- (3) 日時：平成27年8月8日から9日まで  
場所：廿日市市内  
所在地 極楽寺山キャンプ場  
〒738-0031 廿日市市 原牛池山 533  
TEL:0829-31-5656 ファックス:0829-31-3822
- 内容：平成27年8月8～9日に子どもたちを中心としてその保護者や学区  
に暮らす人々も一緒になって、キャンプを行い佐方の地域にまつわる  
話や歴史などを学ぶ。
- (4) 応募・お問い合わせ：佐方市民センター（旧佐方公民館）  
広島県廿日市市佐方一丁目4-28  
TEL (0829) 32-5049  
FAX (0829) 32-5073  
(平日9:00～17:00)  
廿日市中学校は学校にてとりまとめ
- (4) リーダーミーティング  
顔合わせ会 平成27年7月31日  
16:00 集合 17:00～顔合わせ会  
適時 18時～ 佐方市民センターにて（顔合わせ等）

地域貢献・地域連携活動報告

佐方5

活動名	地域連携事業：佐方地区敬老会
目的または趣旨	佐方地区にて開催される敬老会に人手がいるため、また地域の方との交流を図るために参加
共催団体名および共催の経緯(依頼理由)	主催：佐方自治会 経緯：地域連携活動として、佐方自治会と協議し昨年と同様に、敬老会の催しにボランティアとして協力することになった。 スタッフとして、人間生活学科、食物栄養学科の学生が担当する。
年・日時	平成27年9月21日
活動拠点	佐方市民センター
参加者 教員(責任者には★) 学生(所属・学年・人数)	全体の責任者：★中東教江 人間生活学科 2名 食物栄養学科 2名
活動内容	配布のお土産を流れ作業で、袋に詰めていき、段ボールの中およびテーブルに並べる。2名が会場係り、2名アトラクションの呼出し係り、であった。 小中学生が敬老会に出席されるご老人を入り口までの案内、それを受けて会場の席まで、できるだけつめて案内する。会開始後は、お年寄りを見守る役を短大生が行なった。来場者に明るく挨拶し、声かけを行った。 会が終了後、来場者のお見送りを並んで行う。 後片付けで、椅子の収納、床掃除などを行う。
反省・コメント	当初、5名参加の予定であったが、1名欠席し4名で参加する。 袋詰め作業は、段取りよく進められた。 会場係り、呼び出しばかり、問題なく担当業務を行った。
添付書類	(有) (無)

平成 27 年度 地域貢献・地域連携活動報告

佐方 6

活動名	佐方地区通学合宿ボランティア（学校支援ボランティア事業）
目的または趣旨	子どもたちが学校に通いながら地域の施設を利用して、短時間の集団死活の中で家事などの体験活動を行うことで、自立心を高めることを目的とする。さらに、保護者や地域にとっても、「地域の子は地域が育む」ことを目指して自治会や保護者のネットワークを広げる。
共催団体名および共催の経緯（依頼理由）	主催：佐方地区自治会、 後援：廿日市市教育委員会、廿日市市立佐方小学校 経緯： 本学食物栄養学科より佐方アイラブ自治会へ学生ボランティアの打診をし、伊藤様より依頼があった。
年・日時～年・日時	2015/10/15(木) 15:00 佐方小学校にて、合宿参加児童、佐方地区見守り隊スタッフと学生との顔合わせ、打ち合わせ 実施日：10月25日（日）～27日（月）
活動拠点	佐方西集会所、佐方4丁目集会所、縁側サロン
参加者 教員（責任者） 学生	連絡窓口：平林 食物栄養学科栄養管理コース学生1年生 6名 （合宿所3か所に2名ずつ分かれる）
活動内容	2015/10/25（日）合宿当日の夕食補助（学生12:30～20:00） 2015/10/26（月）合宿当日の夕食補助（学生16:30～20:00）
反省・コメント （学生の感想も含めて）	学生は通学合宿のボランティアの主な内容が食事作りの補助ということもあり楽しんでいる様子であった。短期大学、学生と子どもたち、地域の見守り隊の方々との交流も深まり、来年度へ向けてネットワークを広げていける活動であると思われた。 学生感想：本当に充実した3日間だった。打ち合わせの時の小学年生の元気の良さを見ており、周りに小学3、4年生くらいの子が居ないためどんなふうに接したらいいか最初は掴めなかったが、みんななどんどん話しかけてくれてすぐに仲良くなれた。やんちゃで嫌になりになったが、笑顔で楽しそうにしている姿を見ていると嫌な気持ちも吹き飛び、元気をもらえた。ボランティアの人もとても親切にして下さり、とてもいい経験になった。 大変楽しく、有意義な経験でした。 来年も参加したいと思うとの反省がでていました。
添付書類	有

平成 27 年度 通学合宿ボランティア 10 月 25 日(月)～10 月 26 日(月)参加

佐方西集会所(世話人代表 (伊藤利彦) 31-0258

担当学生 1 年生 福田 梨奈 田村 美樹 2 名  
児童 9 名参加  
10/25 夕食の献立 1 班 おにぎり・シチュー・サラダ・柿  
2 班 チャーハン・ポテトサラダ・柿  
10/26 夕食の献立 1・2 班 カレーライス・サラダ・アイスクリーム

四丁目集会所 (世話人代表 馬杉 征三) 31-6057

担当学生 1 年生 関上 幸 田頭 真輝 2 名  
児童 7 名参加  
10/25 夕食の献立 1 班 ご飯・ハンバーグ・サラダ・味噌汁・リンゴ  
10/26 夕食の献立 1 班 カレーライス・サラダ・みかん

縁側サロン (世話人代表 生川 加代子) 32-3665

担当学生 1 年 周藤 瑠奈 西川 理沙 2 名  
児童 9 名参加  
10/25 夕食の献立 1 班 ご飯・ハンバーグ・ハムサラダ・フルーツポンチ  
2 班 炊き込みご飯・チーズハンバーグ・味噌汁  
・フルーツポンチ  
10/26 夕食の献立 1・2 班 カレーライス・サラダ・アイスクリーム

☆佐方西集会所・縁側サロン 学生の夕食代金 200 円 / 1 回を支払った。(大学負担)

☆学生の帰途には、大学までタクシーを使用した。(大学負担)

担当教員 山陽女子短期大学 食物栄養科  
平林 眞弓

地域貢献・地域連携活動報告

佐方8

活動名	「佐方花いっぱい運動」
目的または趣旨	佐方自治会行事への参加の一つとして「佐方花いっぱい運動」にボランティアとして参加
共催団体名および共催の経緯(依頼理由)	主催：佐方自治会 経緯：佐方自治会と協議し、決定した参加行事の一つ
年・日時～年・日時	2015年10月31日(土)8時30分～10時
活動拠点	佐方地区 JR踏切付近の土手と交差点
参加者 教員(責任者には★) 学生(所属・学年・人数)	★石永正隆 食物栄養学科1年5名、臨床検査学科1年1名
活動内容	今年度は工事のために土手での作業は出来なかった。 花壇の花植えや清掃活動を行った。
反省・コメント	
添付書類	有



# 佐方花いっぱい運動

今年も、六月六日(土)に続いて第二回目  
を十一月一日(土)に実施しました。今回か  
らは、いろいろな行事のために、三十分早  
めてほしいとのこと、八時三十分開始と  
しました。朝はやや冷え込んでおりました  
が、秋晴れのよい天気となり、関係者は早  
くから準備をされておられ  
ました。そして時間前か  
らすでに取りかかり、九時過  
ぎには花壇がビオラの花に  
変身しておりました。



今回も佐方小学校の教  
頭先生をはじめ先生方と  
子供達、山陽女子短大の学  
生、各町内会、各種団体、  
コミュニティ事業局各部、総勢一〇二名  
の皆様方のご協力で花植えと共に、地域の  
暖かい交流の場となりました。



今回は、佐方川公園が新しく整備中で  
来年三月完成の予定  
であり、植えることが  
できませんでしたが、今  
回のビオラは半年位  
咲き続けますので、地  
域の皆様方も見守つ  
て頂き、たまには雑草  
を抜いて頂ければ嬉  
しく思います。

## 通学合宿

コミュニティ事業局

今年で八回目になります通学合宿が二  
泊三日の日程で行われました。佐方小学  
校の児童三年生十三名、四年生十二名合

計二十五名の子も達が佐方西集会所・  
縁側サロン・四丁目集会所にそれぞれ別  
れて集団生活を行いました。

この行事は子ども達が家族から離れて  
学校に通いながら短期間の集団生活をす  
る中で、家事などの体験活動を通じて主  
体性や自主性を育てることを目的として  
行われています。



三日間、子ども達は見守り隊のおじさ  
んやおばさんに見守られ  
ながら、自分達で考えて行  
動します。食事の献立、  
決められた予算の中での  
買物、食事の用意と日頃  
のお母さん達にやっていたら  
つていたことをとまどいな  
がら、自分達で作った  
料理が美味しいのか焼き飯を三杯食  
べた子どもがいたり、野菜サラダのレタスや  
キュウリが嫌いにもかかわらず怒られな  
がら食べている子どももいました。風呂は近  
所でお願いで三〜四人が連れ立って行  
き「おねがいします」とあいさつして借り  
ました。夜は見守り隊の方とランプ遊び  
や本の読み聞かせ・絵の間違い探しなどを  
楽しみました。九時にな  
ると自分達でふとんを敷  
いて就寝しましたがな  
かなか寝つかれない子ども  
もいたようです。三日目  
の朝は六時に起床してふ  
とんをたたみ部屋の掃除  
をして朝食を取り「あり  
がとうございました」のお  
札のあいさつをして学校に出かけて行きま  
した。三日間の生活を通じて子ども達は  
特に淋しがることもなく、「また経験したい」  
と言っていました。お世話いただいたみな  
さんには本当にありがとうございます。



「地域の子は地域で育てる」をモットー  
に来年もよろしくお願いします。 総務局

## 佐方八幡三十六歌仙 絵馬額(その四)

下見隆雄

(4) 平兼盛  
歌人名(左端)も絵柄も判別できま  
す。和歌部分(左から右へ)は、傍線部  
分が判読できるのみ、歌は次のよう  
でしょう。

暮れてゆく秋の形見に置くものは  
我が元結の霜にぞありける  
(暮れ去ってゆく秋が形見として  
残して置くものは、私の元結の霜す  
なわち白髪であったのです。しみじ  
み、年寄った己を実感することです。)  
(「拾遺集」)

(5) 伊勢  
この額は、全体として、絵柄も  
和歌も影のごとく薄いのですが、歌  
人名(右端)は判読可能で、和歌



(5)

(4)



佐竹本歌仙絵 伊勢

の部分も、傍線部分がかろうじて読み取  
れます。歌は次のものと思われま  
す。三輪山のいかにまら見む年ふとも たづ  
ぬる人もあらじと思へば  
(恋しい人を持つ場所として知られる三  
輪山で、私はどのように待てばよいのでし  
ょう。幾年待っても訪ねてくれる人はい  
ないだろうと思われますので。)(「古今集」)

## 佐方とその近郊の花(21)

### 冠梅園の梅見

2月から3月にかけて人間  
も動植物もその活動がだんだ  
んと活発になり梅見や野遊び  
にでかけることが多くなりま  
す。

この周辺で私がお勧めする  
梅園の一つに山口県光市にあり  
国道2号線沿いに位置する  
「冠梅園」があります。

時季になると家族連れや若  
いカップルなど老若男女を問  
わず多くの梅見客が訪れます。  
園内の高い所から瀬戸内海も  
眺望できる風光明媚なところ  
です。

写真は、4年前写真  
クラブの撮影会で行った  
ときのもので、和服姿の女性  
がポーズをとっているところ、  
子ども連れの家族が写真  
を撮り合っているところなど  
を撮ったものです。

ちょっと早いです春先ぜひ佐方の梅が芽吹いた頃  
「冠梅園」に梅見に出かけてみてはいかがですか。  
梅見らしい梅見が出来ること請け合いです。

写真：齋藤正美 (元佐方住民、現在、吉賀町柿木村在住)



地域貢献・地域連携活動報告

佐方9

活動名	リトルシェフ（小学生対象の料理教室）
目的または趣旨	佐方自治会行事への参加の一つとしてリトルシェフにスタッフとして参加。
共催団体名および共催の経緯（依頼理由）	主催：佐方市民センター
年・日時～年・日時	11月21日（土）8時20分～13時 佐方市民センターにて下準備、実習、片づけ
活動拠点	佐方市民センター
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	★下地准教授、西庄 食物栄養学科2年生4名
活動内容	市民センターにて材料の計量、下準備を行ない、事前に制作したパワーポイントを使用して当日使用する食材の簡単なクイズ等を行なった。下地准教授が簡単に調理の説明をした後、各グループに分かれて実習。1グループに学生が1～2名ずつついた。学生はそれぞれに声かけをしながら小学生に指示を出していた。皆で試食後片づけを行ない、解散とした。
反省・コメント	低学年の参加者が多く、包丁使いなどに不安があったが、学生たちと話ながら楽しく実習でき、けがもなく終了した。小学生への指示も的確にできている学生が多かった。料理は子どもの好きな料理にしたが、量が多く、食べきれない小学生が多かったので、量に気を付けなければならないと感じた。学生は、教えることの難しさ、楽しさを実感していた。
添付書類	① 有 無



地域貢献・地域連携活動報告

佐方10

活動名	佐方子ども餅つき大会
目的または趣旨	佐方自治会行事への参加
共催団体名および 共催の経緯 (依頼理由)	主催：佐方自治会 昨年に引き続き本行事に参加
年・日時～年・日時	11月23日 9:00-13:30
活動拠点	佐方八幡神社境内
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	責任者：★石永正隆 人間生活学科1年1名、食物栄養学科1年4名、 臨床検査学科2年3名
活動内容	手伝った作業は以下の通りである。 ・餅つき、および餅を丸める作業 ・豚汁配膳 ・後片付け等
反省・コメント (学生の感想も含めて)	参加した学生諸君は、子ども達と触れあったり、また、地域の方々と話をしながら和気あいあいと活動をしていました。「餅をついたり、丸めたりしたことなど」余り体験できないことを体験でき、大変喜んでいました。また、昨年も参加した学生を覚えていた子どもがいて、感動の一場面もありました。毎年こうして、地域の行事に参加していることに対して、自治会の方々からお礼の言葉を頂きました。 反省点：三角巾を忘れないように徹底すべきだった。
添付書類	(有) 無



地域貢献・地域連携活動報告

佐方 1 1

活動名	佐方とんど祭
目的または趣旨	地域連携：佐方自治会行事への参加の一つとして とんど祭りへボランティアとして参加
共催団体名および 共催の経緯 (依頼理由)	主催：佐方自治会 経緯：昨年度からの継続
年・日時～年・日時	2016年1月9日12時30分から16時30分
活動拠点	佐方小学校 校庭
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	教員★石永教授 学生：人間生活学科1年6名、食物栄養学科1年4名 臨床検査学科1年4名 2年1名
活動内容	受付、焼き鳥・焼き芋・豚汁の販売など
反省・コメント等	佐方とんど祭(1月9日)が佐方小学校校庭で開催され、全学科から15名と大勢の学生がボランティアとして参加しました。 今年も昨年同様、かなり大きなとんどが出来上がっていました。昨年と比べて参加した子どもや大人の数が多かったということでした。学生は受付、焼き芋・焼き鳥・豚汁の販売などを分担し、にこやかに手際よく対応していました。消火器の使い方も教えて頂きました。学生も地域の方々を上手にコミュニケーションを取れていたようです。PTAの方や自治会の方々からは、大勢の学生がボランティアとして参加してくれたことに感謝とお礼のことばを頂きました。
添付書類	(有) 無)



地域貢献・地域連携活動報告

4-1

活動名	インターンシップ
目的または趣旨	社会人としてのマナーを身につけるとともに、職業観や職業意識を高め、キャリアアップの醸成をはかる。
共催団体名	①デリカウイング株式会社 ②株式会社 ミモザ
期日（期間）	①平成 27 年 9 月 7 日（月）～ 9 月 11 日（金） ②平成 27 年 9 月 14 日（月）～ 9 月 18 日（金）
活動拠点	①廿日市市宮内工業団地 2-5 ②廿日市市下平良丁目 2-2-1 ゆめタウン廿日市内 1 階
参加者	食物栄養学科食品開発コース 2 年次生 5 名 ①岩崎遥香、重津絵三佳、中西紗弥香、林明奈 ②中尾真奈（人間生活学科生 1 名と共に実施）
活動内容	企業内オリエンテーション、セミナー（1 つの商品が出来上がるプロセス、デザート工場と品質管理、消費者の求める商品とは、商品開発シュミレーションなど）、視察研修（炊飯現場見学、和菓子工場見学など）、開発商品発表会・プレゼンなど
反省・コメント等	インターンシップ受け入れ先の規模や業務内容など、もう少し具体的に事前学習として研究しておくべきだった。また、具体的な学びの内容を明確にしたうえで、実習に臨むよう指導するべきであった。
添付書類	無

地域貢献・地域連携活動報告

4 - 2

活動名	医療事務職員のスキルアップ勉強会
目的または趣旨	廿日市地域の医療機関の事務職員（医事課員、診療情報管理士等）のスキルアップのための勉強会を、2ヶ月毎に行う。本学教員が代表・事務局を務める「広島診療情報勉強会」と連携して行う
共催団体名および共催の経緯（依頼理由）	共催団体名：広島診療情報勉強会 広島診療情報勉強会は、平成9年1月に発足し、地域医療機関の医事課員、診療情報管理士並びに診療情報管理に携わる者、関係機関等が共に連携し、診療情報提供の環境作り及び会員の学術・実務的な向上を図り、医療・保健・福祉分野において貢献できる人材になれるよう研鑽することを目的としている。本学教員が代表・事務局を務めている。
年・日時～年・日時	平成27年4月～平成28年3月
活動拠点	山陽女子短期大学
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数） *学生：講演会に参加	教員：★有吉 澄江、清水 隆明 学生：専攻科 診療情報管理専攻 学生 人間生活学科医療事務情報コース 学生
活動内容	事例発表、意見交換など、廿日市市内の医療機関事務職員のスキルアップのための勉強会を開催している。
反省・コメント	勤務で多忙な中を、毎回、多数の参加者があり、活発な活動を継続している。
添付書類	無

地域貢献・地域連携活動報告

4 - 4

活動名	ゼロからはじめる癌登録
目的または趣旨	廿日市地域の医療機関の事務職員（医事課員、診療情報管理士等）の「癌登録」スキルアップのための勉強会を、本学教員が代表・事務局を務める「広島診療情報勉強会」と連携して行う
共催団体名および共催の経緯（依頼理由）	共催団体名：広島診療情報勉強会 広島診療情報勉強会は、平成9年1月に発足し、地域医療機関の医事課員、診療情報管理士並びに診療情報管理に携わる者、関係機関等が共に連携し、診療情報提供の環境作り及び会員の学術・実務的な向上を図り、医療・保健・福祉分野において貢献できる人材になれるよう研鑽することを目的としている。本学教員が代表・事務局を務めている。
年・日時～年・日時	平成27年5月30日・7月25日
活動拠点	山陽女子短期大学
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数） *学生：講演会に参加	教員：★有吉 澄江、清水 隆明 学生：専攻科 診療情報管理専攻 学生 人間生活学科医療事務情報コース 学生
活動内容	県立広島病院、広島市立病院機構等から講師を招き、「癌登録」に関わる勉強会を開催した。
反省・コメント	「癌登録」を初歩から理解できるように工夫をしている。次年度も継続して開催する予定である。
添付書類	無

地域貢献・地域連携活動報告

4 - 5

活動名	学生のためのボランティア応援会議
目的または趣旨	ボランティア活動のことがよくわからない「活動潜在層」の学生に対し活動のきっかけづくりやボランティアの体験、ボランティアに興味のある学生に対してボランティア活動の心がまえなど基本を学ぶ。
共催団体名および 共催の経緯 (依頼理由)	大学（工大、日赤看護、山陽）、廿日市市社会福祉協議会
年・日時～年・日時	2015年4月8日 18:30～20:00
活動拠点	あいプラザ3F ボランティアルーム
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	教員：高田、小野寺 学生（臨床検査学科）：3年小石、2年武村
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度のふりかえり</li> <li>・今年度の事業について</li> <li>・ボランティア情報交換</li> </ul>
反省・コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議においても学生の声がたくさん聞かれるようになり、12月の講座では司会進行も学生が行った。</li> <li>・学生主体のものになってきた。</li> <li>・自分たちがやりたいことが反映されてきた。</li> <li>・課題も自分たちで分かってきた。</li> <li>・応援会議——1回/2ヶ月 偶数月に1回</li> </ul>
添付書類	(有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/> )

地域貢献・地域連携活動報告

4-5

活動名	学生のためのボランティア応援会議
目的または趣旨	大学と社協が情報共有しながらボランティア活動の応援をしていく
共催団体名および 共催の経緯 (依頼理由)	大学（工大、日赤看護、山陽）、廿日市市社会福祉協議会
年・日時～年・日時	2015年6月3日 18:30～20:00
活動拠点	あいプラザ3F ボランティアルーム
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	教員：小野寺 学生（臨床検査学科）：2年武村
活動内容	ボランティア講座開催（7月4日）における内容の検討
反省・コメント	①ボランティア活動者の体験発表②ボランティア体験③他大学との交流、の3つの内容とし、NPO法人キッズNPO、小規模多機能センター廿日市、地域活動支援センターハートフルあまの、ささえ愛ネットはつかいちの協力をお願いすることになった。
添付書類	(有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> )

地域貢献・地域連携活動報告

4-5

活動名	学生のためのボランティア応援会議 2回
目的または趣旨	大学と社協が情報共有しながらボランティア活動の応援をしていく
共催団体名および 共催の経緯 (依頼理由)	大学(工大、日赤看護、山陽)、廿日市市社会福祉協議会
年・日時~年・日時	2015年10月15日 18:30~20:00
活動拠点	あいプラザ3F ボランティアルーム
参加者 教員(責任者には★) 学生(所属・学年・人数)	教員:小野寺 学生(臨床検査学科):3人、(食物栄養学科):2名
活動内容	ボランティア講座開催(12月19日)における内容の検討
反省・コメント	ボランティア体験について①高齢者施設②障がい者施設③保育施設 ④募金活動⑤手話体験 ボランティア活動ブースについて①日赤②山女③工大 についての検討が行われた。山女からは臨床検査学科と食物栄養学 科がブースを提供することとなった。
添付書類	(有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/> )

地域貢献・地域連携活動報告

5 - 1

活動名	はつかいち環境フェスタ2015
目的または趣旨	環境にやさしい取組みを市民に紹介する活動。
共催団体名および共催の経緯(依頼理由)	廿日市市環境政策課内はつかいち環境フェスタ実行委員会 ご案内があり、本年度で3年連続参加した。
年・日時~年・日時	平成27年10月4日(日) 10:00~15:00
活動拠点	廿日市市下平良丁目2-1 ゆめ桜公園(ゆめタウン廿日市横)
参加者 教員(責任者には★)	教員:石永 正隆 ★重田 耕司 釘宮 正往(非常勤講師) 学生:食品開発コース1年 3名(浅井、尾久田、室山、)
活動内容	食物栄養学科食品開発コースの学生が自分達で作った商品を出店しました。利用価値の低い「おから」をペースト状にして、ゴム風船に充填したぼんぼん(ブルーベリー味)は、羊羹の食感で、大豆の臭いもせず、とっても美味しいと大好評。1個30円でテスト販売し、100個完売。
反省・コメント等	昨年度(サンチェリー)までと異なり屋外での展示は、人通りも多く賑やかであった。 「廃棄食品のエコ」等について、皆で考えるような「啓発パネル」も作成すればよかった。 「クイズ」などのコーナーを設け、参加者が興味を持つような工夫も必要。
添付書類	(有)



地域貢献・地域連携活動報告

5 - 4

活動名	スギ花粉の飛散状況調査
目的または趣旨	春には毎年スギ花粉が飛散し、アレルギーで悩まれている。 廿日市佐方（本学）地区での飛散状況を調査する。
共催団体名および 共催の経緯 (依頼理由)	本学の本館屋上に花粉採取器具を設置し、2月8日から開始した。
年・日時～年・日時	平成27年2月8日（金）～4月2日（木）
活動拠点	山陽女子短期大学 臨床検査学科
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	★林田静枝、 学生 臨床検査学科3年 2名
活動内容	本館屋上に設置されたダーラム型花粉捕集器に設置したワセリンを塗布した採取用スライドを1日1回取り替えて、カルベラ液で染色し1cm <sup>2</sup> 中のスギ・ヒノキの花粉数を顕微鏡にて計測する。 2/12 スギ1が見られたが継続的に飛散しはじめたのは2月17日からである。また、H27年度廿日市地区の飛散数の多かったのは2月20日～3月22日であった。環境庁の発表では4月15日までではあるが、広島434/cm <sup>2</sup> で山口は1641/cm <sup>2</sup> で本学は4月2までの計測で13日すくなくが、総数が966/cm <sup>2</sup> と中間であった。
反省・コメント	来年度の計測修了は全国調査期間の4月15日までとする。
添付書類	無

地域貢献・地域連携活動報告

6-1

活動名	むぎの家（障がい者施設）におけるボランティア
目的または趣旨	作業所イベントサポーター
共催団体名および 共催の経緯 (依頼理由)	NPO 法人 むぎの家
年・日時~年・日時	2015年4月18日
活動拠点	NPO 法人 むぎの家 佐伯区利松 2-3-8
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	学生（臨床）：2年浅山、2年重津
活動内容	作業所イベントサポーター (障がい者の付き添い、イベント手伝い)
反省・コメント	・障がい者の人たちとふれあうことができて良かった。 ・障がい者の人たちのお世話をするのは、コミュニケーション能力が必要だと思った。
添付書類	(有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/> )

地域貢献・地域連携活動報告

6-2

活動名	ひろしまフラワーフェスティバル
目的または趣旨	「赤十字運動月間」の一環として実施し、県民に赤十字事業への理解と協力を求める。
共催団体名および 共催の経緯 (依頼理由)	日本赤十字社
年・日時~年・日時	2015年5月3日~5日
活動拠点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平和大通り</li> <li>・ 平和記念公園</li> <li>・ フジグラン前</li> </ul>
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 赤十字パレード：臨床検査学科 2名</li> <li>・ 「赤十字ひろば」：臨床検査学科 3名</li> <li>・ 献血推進活動：臨床検査学科 4名</li> </ul>
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 赤十字パレードに参加</li> <li>・ 「赤十字ひろば」に参加</li> <li>・ 献血推進活動</li> </ul>
反省・コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 雨の中歩いたが、皆さんが手を振ってくれたので心が温まりました。</li> <li>・ 子ども達とうまく接することができて楽しかった。</li> <li>・ 子ども達と会話をしながら一緒に塗り絵をすることができて楽しかったです。</li> <li>・ 発想力豊かな子ども達と会話することで新鮮な気持ちになりました。</li> <li>・ 雨の日は献血してくださる人が少なかった。</li> </ul>
添付書類	(有) 無)



地域貢献・地域連携活動報告

6 - 3

活動名	献血ルームピース（献血推進活動）
目的または趣旨	献血の目的と必要性を広く広め、献血の普及に寄与する
共催団体名および 共催の経緯 (依頼理由)	日本赤十字社
年・日時~年・日時	2015年5月10日
活動拠点	献血ルームピース
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	臨床検査学科：2年武村、2年棚田
活動内容	献血推進活動 （母の日イベントの手伝い、献血の呼びかけ）
反省・コメント	着ぐるみを初めて着て呼びかけをしたら、とても楽しくできた。
添付書類	（有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/> )

地域貢献・地域連携活動報告

6-4

活動名	ピンクリボンキャンペーン 2015 ピンクリボン de カーブ
目的または趣旨	乳がん検診を普及するために、カーブ球団に協賛していただき、多く人が集まる場所で、健診を呼びかける。
共催団体名および共催の経緯 (依頼理由)	主催：ブレストケア・ピンクリボンキャンペーン in 広島実行委員会 経緯：実行委員長が廿日市出身ということや他大学に声かけしているので、本学にも協力の依頼があった。 スタッフとして、食物栄養学科の学生が担当する。
年・日時	平成 27 年 5 月 17 日
活動拠点	MAZDA Zoom-Zoom スタジアム広島
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	全体の責任者：★中東教江  食物栄養学科 5 名
活動内容	検診の呼びかけとイベントコーナーに立ち寄ってもらうため、アレルギー対応のクッキーを作り、声かけ時に配布した。
反省・コメント	はっきりした数字はわからないが、昨年よりもコーナーへ立ち寄った人が多かったと聞いている。少しは効果があったかと思いき喜んでいいる。 今回は、200 個配布したが、当然ながらもっと多く配布するよう改善したい。
添付書類	(有) (無)

地域貢献・地域連携活動報告

6 - 5

活動名	児童養護施設 光の園 バザー補助
目的または趣旨	バザー補助
共催団体名および 共催の経緯 (依頼理由)	児童養護施設 光の園
年・日時~年・日時	2015年5月17日
活動拠点	児童養護施設 光の園
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	臨床 22名
活動内容	手芸品、食料品、日用品などの販売、会計、片付けなど
反省・コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お客さんにお茶を注いだり、気を配りながら活動した。</li> <li>・笑顔で「ありがとう」と言われてすごく嬉しかった。</li> <li>・地元とのバザーで人数が多く驚いた。たくさん売れてうれしかった。</li> <li>・外国人（タイ・フィリピン等）の方がとても多く、対応に困ったところが多少あった。</li> <li>・思ったより大変だったけど、いい経験になりました。</li> <li>・自分で気付いてやらないといけないので大変でした。</li> </ul>
添付書類	(有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/> )

地域貢献・地域連携活動報告

6-6

活動名	とうかさん de エイズ検査
目的または趣旨	エイズ予防啓発事業
共催団体名および 共催の経緯 (依頼理由)	広島県臨床検査技師会
年・日時~年・日時	2015年6月6日
活動拠点	アリスガーデン付近
参加者 教員(責任者には★) 学生(所属・学年・人数)	臨床検査学科 12名
活動内容	街頭でのパンフレット配布、検査の呼び込み
反省・コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年よりもたくさんの方が関心を持っていてくれたため、達成感があった。</li> <li>・20分の検査でHIVの感染が防止できるので、もっと推進していこうと思った。</li> <li>・若者も検査していただけたので、行ってよかったと思った。</li> <li>・積極的に呼びかけをすると話を聞いて下さったり、検査に行って下さる方もいたので、積極的なことは大切だと実感した。</li> </ul>
添付書類	(有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/> )

地域貢献・地域連携活動報告

6-7

活動名	第53回献血倶楽部ラプロックセミナー
目的または趣旨	献血の目的と必要性を広く広め、献血の普及に寄与する
共催団体名および 共催の経緯 (依頼理由)	広島県大学献血推進協議会 LOPROC「ラプロック」
年・日時~年・日時	2015年6月27日
活動拠点	広島県赤十字血液センター
参加者 教員(責任者には★) 学生(所属・学年・人数)	臨床検査学科5名
活動内容	血液センター見学、県内の大学生との討論会
反省・コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各大学の活動内容について知ることができ、自分達の活動に生かしたいと思った。</li> <li>・骨髄バンクの登録について大変興味を持った。</li> <li>・他大学の発表レベルの高さに圧倒された。</li> </ul>
添付書類	(有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/> )